

『サモアと私と』

学校名・名前・担当教科： 西宮市立甲陽園小学校・稲崎 朋子（国際理解）
 実践教科： 総合的な学習の時間・英語
 指導時数： 5時間
 対象学年： 小学6年生 対象人数：35人

＜教師海外研修を通して感じたこと＞

2011年度から外国語教育が始まり、児童が外国の目を向ける機会が、多くなっているが私たちが国際理解で触れるのは先進国であることが多い。サモアのような開発途上国の事を知る機会は少ない。

開発途上国というイメージからサモアの人々の生活の貧しさをイメージしていたが、実際には携帯電話やパソコンなど我々の生活と変わらない部分があることに驚かされた。しかし、一方で窓のない家に住み、昔から伝わる儀式や制度を行うなどサモア独自の文化も存続していることにも驚いた。

現在のサモアは、伝統的な文化から海外からの文化や物資の流入によって開発が進み、これまでのようなサモア独自の生活ができなくなっている。ゴミの問題、就労問題など、サモアの抱える問題は多い。実際にサモアの人々に触れ、肌で感じることでサモアには何が必要なのか、これからのサモアに私たちは何ができるのかを考えさせられた。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

南国ののんびりしている島で、まだ開発のされていない自然がたくさん残っている国だと思っていた。

何もかも恵まれている日本の子供たちに自分たちの生活について見直してほしい、また、目に見えるものや勉強だけにしか価値がないように思いがちであるので、人としての豊かさを気付かせたいと考えていた。

AFTER

人としての豊かさのある国だと思った。現在の日本では少なくなった人との関わりの大切さを感じられる国だった。しかし、それ以上にサモアの生活は想像していたよりも問題が複雑だったように思う。サモア訪問前に考えていた物資の不足による貧しさよりも、生活環境による変化によってゴミなどの環境破壊について考えさせられた。先進国に住む人間として何かできることはないのか考えさせられた。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

本校の特色として、外国とかかわりのある児童が多いことがあげられる。

本学級では海外旅行をした経験のある児童は過半数をこえ、比較的海外に対して抵抗はなく身近に感じている児童が多い。本学級には数名の外国籍児童がおり、日本国籍児童は積極的にその国の言葉を覚えようとするなど異文化を理解しようとする姿が見られる。血縁関係者が海外に居住している児童や、父兄の海外勤務などで海外居住経験のある児童も少なくない。滞在時期が長期であることや現地校に通っていた経験があるなど、第二言語を取得している児童もおり海外や外国語に対して抵抗の少ない児童が多い。

上記に挙げた児童だけでなく全く海外経験のない児童も多くいるが、外国に対して抵抗は少なく、英語の学習に意欲的に取り組み、外国からの転入生に対しても協力的で、海外に対する興味関心は高い。本学級の児童は英語や国際理解など学習としての知識欲に関しては非常に積極的といえるであろう。

しかし、彼らの得た知識は、「知識として知っている」に過ぎない。児童が目や耳にしたことのある海外は観光地化された都市部やリゾート地であって、現地の人々と同様の生活を体験したことのある児童は数名であった。観光で訪れた場所は整備された環境であることが多く、現地の人々の生活や文化に触れている児童はほとんどいない。その為、海外で紛争が起きたニュースなどを見ても「その国に生まれなくてよかった」「自分と関係ないからよかった」と傍観者としてしか問題をとらえていない。

この授業の1つ目の目的としては先進国・開発途上国という枠を超えて、価値観を振り返らせたい。整備された道路、きれいな家、新しいゲーム、おもちゃ、便利なコンビニなど、使い捨てが当たり前になっている現代社会で、人と人とのふれあいは薄れている。子供同士ですら放課後遊ばずに塾に行き、土日はもちろん平日でも深夜まで受験のために学習をしている。日本は物が豊かだから幸せで、サモアが不幸せであるわけでもなく、その逆でもない。どちらが正しいという結論は出さず、児童自身に考えさせるだけに留めたい。

次の目的としてサモアについて私たちができることを考えさせたい。開発途上国の事をなぜ日本人が考えなくてはならないのかと考えている児童がいる。世界には先進国と開発途上国があり、なぜ開発途上国ができたのか、開発途上国の抱える問題、先進国としてできることはないのかなどを考えさせたい。

学習展開の導入では、世界にはどれだけの国があるのかを知り、先進国や開発途上国などという呼び名で区別されていることを学ばせたい。本学級では開発途上国である「サモア」について名前すら聞いたことがない児童が多く、開発途上の意味を知っている児童も少なかった。日本が先進国でありサモアが開発途上国である事を知り、なぜこのように区別されているのかを学ばせたい。

次にサモアについて知らせたい。サモアで撮影してきたビデオや写真、持ち帰った資料を用いてサモアの生活の様子や文化を、日本と比較しながら児童に自ら気付かせたい。

これから成長する児童にとって、海外の文化に対する知識はなくてはならないものである。サ

モアの生活と日本の生活。「幸せとは何か」。自分たちの生活を振り返ることをしてほしい。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 サモアに地図を送ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの地理的位置を確認する。 ・1学期に学習したポリネシアの島、イースター島のこと等を参考にしながら、どんな島なのかを想像する。 ・サモアの島の様子を絵にかく。 ・模造紙でサモアの絵をかく。周りに折り紙で作った魚を張り、サモアの地図を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図 ・パソコン (Google earth) ・模造紙 ・画用紙など
2時限目 世界にあるいろいろな国	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々について知る ・それぞれの国に日本とどんな関係があるのかを考える。 ・先進国と開発途上国と呼ばれる国々があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国旗カード ・パワーポイント
3～5時限目 サモアを知ろう①～③	<p>A) サモアの小学校の様子を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サモアの小学生が作った模造紙の日本地図を見る。 ・サモアの小学生が描いた日本のイメージを見る。 <p>B) レヌカの学び(サモア版)を実施し、サモアの生活を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街の様子 ・家庭の様子 <p>C) サモアのお土産を手に取り、何に使われていたものかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・パワーポイント ・ワークシート ・サモアのお土産
6時限目 パパラギとツイアビと私	<ul style="list-style-type: none"> ・『パパラギ』の文章を読む。 ・伝統と開発のはざまにおかれているサモアの現状を考えながら何が幸せなのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『パパラギ』の文章 ・ワークシート
7時限目 私たちにできること①	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの現状に目を向ける。 ・開発途上国に対して自分には何が出来るかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材プリント ・パワーポイント
8時限目 私たちにできること②	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアのクリスマスに対する意識を理解する。 ・クリスマスで使う言葉を知る。 ・英語で学習した英語を使ってクリスマスカードを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスカード ・上質紙

2. 授業の詳細

1時限目 「サモアに地図を送ろう」

■目標

- ・サモアのイメージを想像してみる。

■内容

- ① サモアの位置を Google earth で確認する。

- ② 1学期にイースター島の学習をした。ヒントとしてイースター島はどんな島だったか思いださせる。

「サモアはどんな国だと思う？」

- ・海や空がきれい
- ・暑い
- ・ずっと夏
- ・貧しい
- ・魚ばかり食べている

- ③ サモアの小学校訪問の際、児童が作った地図とサモアのイメージを渡し、サモアの児童に同じものを作ってもらい持ち帰ることを伝える。

I. サモアのイメージを絵にする



サモアのイメージ①



サモアのイメージ②



サモアのイメージ③

II. 折り紙を使ってサモアの地図を作る



模造紙に色を塗る



折り紙で魚を折る①



折り紙で魚を折る②

2時限目 「世界にあるいろいろな国」

■目標

- ・世界にある国をどれだけ知っているかを認識する。
- ・開発途上国と言われている国があることを知る。

■内容

- ① 世界には国が何か国あると思う？知っている国を挙げてみよう。
- ② 開発途上国と呼ばれる国がある。それはどんな国のこと？

◎児童の反応

- ・世界にこんなにたくさんの国があるとは知らなかった。
- ・聞いたことのない国がたくさんあった。
- ・「開発途上国」の名前は聞いたことがあったが、こんなにたくさんあるとは思わなかった。
- ・なぜ貧しい国がこんなにたくさんあるのか。

◎所感

国際理解教育では主に英語圏に目を向けてしまいがちである。児童はよく目にする欧米など先

進国に対しての興味はあるが、それ以外の国に対しては知る機会がほとんどない。開発途上国と呼ばれる国がある事実を知っている児童も数名いたが、それらに対しての知識ほとんどなかった。

先進国だけでなく自分たちの知らない国が世界たくさんあることを知ることでよかったと思う。ただ、開発途上国の定義を詳しく説明することが小学生には難しく表現があいまいになってしまった。

3～5時限目 「サモアを知ろう①～③」

■目標

- ・サモアについて知り、興味を持つ。
- ・サモアの文化を理解する。
- ・自分の想像と比較してみる。

■内容

① サモアの概略を知る。

地理的位置、面積、人口、言葉、国旗、宗教、風景など。
自分の想像したサモアとの違いを見つける。



サモアの木々



サモアの海



サモアの子供

② サモアの学校の様子。日本で作ったイメージ、サモアの地図を渡した時の写真を見せる。



サモアの地図



初めての折り紙



日本の地図を作ろう



授業風景



掃除の時間

③ サモアの児童から見た日本のイメージを見る。

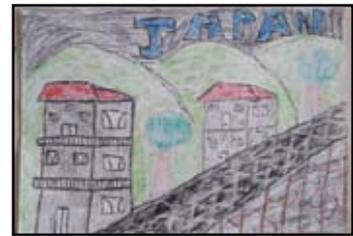
④ 自分たちの持っていたサモアのイメージとサモアの写真は同じか考える。



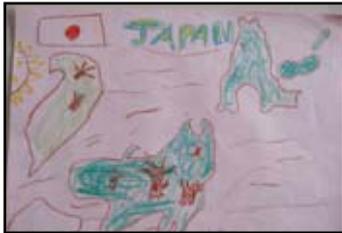
サモアの児童の絵①



サモアの児童の絵②



サモアの児童の絵③



サモアの児童の絵④



<ココがポイント>

サモアの子供たちが日本の児童の作った地図を見て感嘆の声を上げていたことを伝えた。サモアの小学生がどんなものを作ったのか興味を示し、つながりを感じることができていた。

- ⑤ レヌカの学び（サモア版）を通してサモアの生活に興味を持たせる。



サモア？日本？

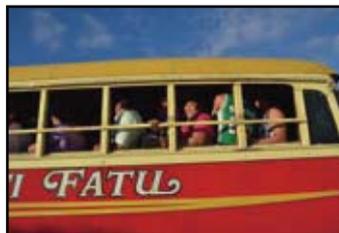


<ココがポイント>

写真やビデオを使ってみせるとわかりやすい。日本では見られない南十字星の写真に感激していた。



窓のない家



バスで必ず座る？



サモアの朝ごはん



家事を手伝う



座って歌を歌う



カバの儀式

- ⑥ サモアで買ったものを手に取ってみて何に使われていたのかを考える。

- ⑦ サモアの文化に触れる。



なんだろう？①



なんだろう？②



なんだろう？③



何を伝えたい？①



<ココがポイント>

サモアで購入したお土産だけでなく、JICA 兵庫に掲示してあった清掃の大切さをイラストにしたものを解説させる班を作り、何が描かれているのかを考えさせた。

◎所感

外国に住む同年代の児童がどのような絵を描いているのか興味があったようで、一つ一つの絵に食い入るように見ていた。中にはビルが立ち並び、車や高速道路が描かれている絵を見ては、日本に近い絵があると驚いていた。サモアの自然、学校、町、生活すべてが新鮮であったようだ。

6時限目 「パパラギとツイアビと私」

■目標

- ・パパラギの生活を見たツイアビの考えについて考える。
- ・自分の生活をふりかえろう。

■内容

- ① サモアから持ち帰ったモノを見せ、文化に興味を持たせる。
- ② パパラギの文章を読む、パパラギとは？
- ③ 私たちはどっちかな？
- ④ サモアの生活は？パパラギの生活は？



<ココがポイント>

物に囲まれた便利な自分たちの生活に疑問を投げかける。

◎児童の反応

- ・私たちの生活はパパラギと同じなんだと思った。
- ・サモアの生活はとってもいいものだと思う。
- ・私たちの生活は物がたくさんあって便利だけれど、サモアの生活は理想の生活だと思う。でも私たちがサモアの生活にもどることはできないけど…。
- ・何もなくても家族がいればいいと思うサモアの生活がいいなと思う。
- ・パパラギは白人という意味じゃなくて先進国に住む人間をさしているのだと思う。
- ・僕も家族がいれば何もいりません。家のテレビが壊れているけれど、欲しいと思いません。

◎所感

サモアの生活が自分の生活とは違っていること、自分たちは恵まれていることを感じてはいるが、自分の生活と比べることに戸惑っていた児童が多い。『パパラギ』の絵本を使用し、パパラギの生活を見たツイアビの気持ちを考えることで、自分たちの生活に疑問を持たせたかった。

パパラギの生活は便利なものだと考えているが、サモアの生活が理想の生活だと考えている児童が多かった。しかし、モノに恵まれた自分の生活を捨てて、サモアのような生活ができないことも分かっているようである。今の便利な生活を捨ててしまうことはできないが、使い捨てやモノにあふれた自分の生活を見直したいと振返っている児童がおり、授業をやってよかったと思う。

7時限目 「私たちにできること①」

■目標

- ・サモアのこれからと自分たちにできることを考える。

■内容

- ① 開発途上にある国の現状を知る。
- ② 開発途上にあるサモアの様子を見て、自分たちにできることを考える。

◎児童の反応

- ・環境問題について教えてあげたらいいと思う。
- ・日本にいる自分に何ができるかまだよくわからない。
- ・自分も大人になったら貧しい人の役に立ちたいと思った。
- ・ゴミがあちこちに捨てられている写真があったので、ゴミの分別の大切さを教えてほしいと思う。

ゴミの問題に驚いていた児童が多かった。特に、分別する習慣がないことに驚いていた。自分たちが普段やっている分別がどれほど環境に大きな影響を与えているのかを改めて感じていたようだった。

7時限目 「サモアの発展と私たちにできること②」

■目標

- ・サモアの文化を理解し、学習した英語を活かしてクリスマスカードを送る。

■内容

- ① クリスマスに使う言葉を学ぶ。
- ② 手紙の書き方を学ぶ。
- ③ 英語で書いてみよう。

◎児童の反応

- ・英語でメッセージを書くのが難しかった。
- ・サモアに自分のカードが行くと思うと緊張する。

◎所感

教師側からの一方的な授業ではなかなかサモアの問題を身近に感じることは難しい。クリスマスカードを送ることで、遠い国の話ではなくサモアを身近に感じさせたかった。また、学校では教室の中だけで英語を学習しているが、実際にサモアに送るカードを書くことになると児童はかなり緊張していたが、英語を使うことでいろんな国の人々と交流できることを実感していた。

3. 成果と課題

私自信サモアという国についてはほとんど何も知らなかった。自分自身が現地に行くことで児童に何が伝えられるのかという不安もあったが、実際に私自身がサモアに行き、体験したことを伝え、見せることで児童も身近に感じながら学習することができていたように思う。しかし、児童にとってサモアは遠い国であり、サモアで起きている問題に対し自分が何か行動を起こすという考え方につながらず、傍観者としての立場から抜け出せない児童もおり、この点は今後の学習課題としていきたい。

また、英語で学習しているアルファベットを使い、クリスマスカードを作成しサモアの Moata Primary School へ送ることができた。英語の学習をしても実際に使う機会は少ないので海外とのやり取りは難しいと思ったが、自分たちが描いたクリスマスカードがサモアの児童に届くことでサモアに対する心の距離が少しでも縮まって欲しいと考えた。実際にサモアにカードが届いた報告をすると予想以上に大きな反応を示し、学習を行う前よりもサモアの事に興味を持ち始めていた。今後もできるかぎり交流を続け、児童自身ができる「サモアへの支援」について考えさせていきたいと思う。また、このやり取りを行うことで、サモアの問題だけでなく海外で起きている様々な問題に耳を傾けられるように繋げたい。

残念なのは時間数の確保がかなり難しかったことである。6学年の総合学習の内容が決まっていたため、他のクラスでは国際理解教育に時間を割くことができなかった。どのクラスも授業数の確保が難しく、サモアの紹介にとどまり、児童に考えさせることができなかったのが残念である。今後、時期を見て他のクラスでも授業が実践をしたいと考えている。

・参考文献

1. 絵本「パパラギ」 はじめて文明を見た南の島の酋長ツイアビが話したこと
エーリッヒ・ショイルマン(編集)和田誠(構成・絵)
2. レヌカの学び(サモア版)平成18年度教師海外研修参加者 佐藤友紀氏作成
3. 外務省 ホームページ http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ohrlls/ldc_teigi.html